

7月の多雨で病害が拡大する恐れがあります。油断せず防除を！

1 気象概況

東北地方南部は8月2日頃梅雨明けしました（平年より8日遅い）。7月の降水量は平年比267%と非常に多く、また日照時間は43%と少なく推移しました（アメダス・若松）。しかし、梅雨明け以降は一転して晴れの日が多くなり、気温の高い日が続いています。

東北地方の1ヶ月予報（仙台管区气象台8/6発表）によれば、8月の東北日本海側では平年に比べ晴れの日が少なくなりますが、気温は平年よりも高くなる見込みです。

2 果樹の生育概況

リンゴの果実肥大は概ね平年並みですが、摘果作業の遅れた園地では平年よりも果実がやや小さくなっています。カキの果実肥大は、平年よりも大きく推移しています。（表1）

表1 各樹種の果実肥大状況（7月30日調査、暦日比較、平年は1986～2019年の平均）

樹種 品種	リンゴ								カキ	
	ふじ				つがる				会津身不知	
	会津若松市 北会津町		磐梯町		会津若松市 北会津町		磐梯町		会津若松市 門田町	
調査地点	縦経	横経	縦経	横経	縦経	横経	縦経	横経	縦径	横径
果実経 (mm)	61.5	68.0	49.3	55.3	59.6	69.1	53.7	68.3	35.0	48.3
平年比 (%)	113	115	91	93	97	100	85	99	119	113

3 モモの収穫果概況

会津若松市神指町のモモ「あかつき」は7月末頃から収穫期に入り、8月初旬に収穫のピークを迎えました（平年より約1週間早い）。天候不順が続いたため着色不良のまま果肉が軟化しやすく、農業者からは収穫タイミングが難しかったとの声が聞かれました。

なお、会津農林事務所でも実施した「あかつき」の収穫果調査（表2）における平均糖度は12.0であり、収穫期直前の降雨により食味の低下が心配されたものの、「あかつき」の目標糖度である12度を満たしていました。

表2 会津農林事務所における収穫果調査結果（8月3日実施）

	平均果重 (g)	平均糖度 (%)
今年度調査結果	295.1	12.0
平年値	300.1	12.8

4 今後の栽培管理

(1) 樹種共通

ア 病害虫防除

7月は中通り南部などでカメムシ類による被害が多く確認されました。カメムシの飛来時期は地域によって異なりますが、7月末から9月上旬にかけて会津地方でもカメムシ類による被害が多発する恐れがあります。園内でカメムシの成虫を確認したら、防除暦や果樹情報特別号（6月15日発行）を参考に防除を徹底しましょう。



図1 クサギカメムシ

(2) リンゴ

ア 収穫前管理

北会津の「つがる」は、平年9月1日頃から収穫開始となります。果面の30%程度が着色したら、果実に密着している葉を2～3枚摘み取りましょう。また、「つがる」などの落果しやすい品種では落果防止剤を散布しましょう（表3）。

表3 リンゴの収穫前落果防止剤

農薬名称	希釈倍率	使用液量	使用時期	使用回数
ストップール液剤	1,000～ 1,500倍	300～600L /10a	収穫開始予定日の25～7日前（但し2回散布の場合は10日程度間隔をあける）	2回 以内
ヒオモン水溶剤	1,000～ 2,000倍	300～600L /10a	収穫開始予定日の21～4日前	2回 以内

※ ストップール液剤は果肉の軟化を促進するため散布はなるべく1回に留めます。

※ ヒオモン水溶剤は、果実の成熟促進作用が弱く、収穫前の果実軟化の心配が少ないとされます。つがる、きおう、王林、紅玉、陽光で落果防止効果が確認されています。

イ 病害虫防除

一部園地で黒星病の果実被害が確認されています。開花期前後で感染が広がったとみられていることから、暖冬により子のう胞子の飛散が平年よりも早まり、例年通りの薬剤防除でうまく防除できなかった可能性があります。発生園では今後も薬剤防除を徹底しつつ、罹病果の摘果を行いましょ。

また、高温乾燥が続く場合はハダニ類が急増します。必ず園地ではルーペを持ち歩き、葉をこまめに確認しましょう。また、発生を確認したら防除暦を参考に速やかな防除を実施しましょう。

なお、7月の降雨が長く続いたため、斑点落葉病や褐斑病といった病害が今後拡大する恐れがあります。薬剤防除は例年以上に徹底するよう心掛けましょう。

(3) カキ

ア 新梢管理

新梢管理は、7～9月下旬にかけて3回程度に分けて実施します。一度にせん除すると、枝の二次伸長を招く恐れがあります。せん定痕等から新梢が密生している樹では、強すぎる新梢、弱い新梢、逆行している新梢を中心に間引いてください。なお、日焼け果を予防するために徒長枝は、ある程度残すようにしましょう。

イ 着色管理

トップスコア・リン（肥料）を8月中下旬と9月上中旬の2回、1,000～2,000倍で葉面散布することで、着色の向上が期待できます。例年着色の悪い園地では散布を検討しましょう。

ウ 病害虫防除

ヒメコスカシバの発生が見られる場合、8月中旬～下旬に、薬液が芽や葉にかからないように注意しながら主幹部、主枝及び亜主枝の分枝部に、ガットサイドS（収穫45日前まで）1.5倍、またはトラサイドA乳剤（収穫30日前まで）200倍を散布して下さい。なお、使用する前に必ず収穫時期（収穫前日数）を確認しましょう。

(4) モモ

ア 収穫前管理（晩生種）

収穫予定日の10日前頃には、修正摘果や夏季せん定、支柱立て、枝つり、反射シートの設置と行った収穫前管理を実施しましょう。なお、晩生品種の収穫期は、中生品種の収穫期から推定すると、平年よりも1週間程度早まる可能性があります。

イ 病害虫防除

多くの園地でせん孔細菌病の罹病葉が確認されています。被害枝・葉・果実は見つけ次第除去して適切に処分してください。

また、せん孔細菌病には秋期防除の実施が効果的です。秋期防除は、9月10日頃から10日間隔で計3回実施する必要があります。会津地方主要果樹病害虫防除暦を参考に、必ず実施しましょう。

5 会津農林事務所果樹担当でLINE公式アカウントを開設しました

会津農林事務所ではLINE公式アカウントを活用して、この「果樹情報」の発行通知のほか、果樹指導会等の開催情報、管内における病害虫の発生状況等について情報発信を行います。チャットによる質問も随時受け付けます。

利用を希望する方は、LINEの友だち登録から右のQRをスキャンして友だちに「追加」し、画面の指示に従って登録してください。登録は無料です。なお、ご不明な点等あれば、会津農林事務所農業振興普及部（電話：0242-29-5317／担当：今井）までお気軽に御相談ください。



図2 登録用QR